

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.13
平成25年10月9日

『勝つことばかり知りて
負けることを知らざれば
害その身に至る』

徳川家康 「東照宮遺訓」より

これは、徳川家康が、「東照宮遺訓」の中で記したものです。この遺訓について考えたとき、勝つばかりの危険性として、「有頂天になる、謙虚さが失われる、横暴になる、油断する、成長が止まる、・・・」などが挙げられます。また、逆に、負けることの価値として、「負けるつらさがわかる、悔しさをバネに頑張れる、学べることが多い、今後の課題が見つかる、・・・」などが考えられます。また、負ける体験をすることで、自ずと耐える力がつくことも大きいのではないのでしょうか。

相田みつを氏は、「**にんげんだもの**」の中で、『負ける練習、恥をさらす訓練、カッコの悪い体験を、できるだけ多く子どもにさせておくこと』『子どもがガマンをする体験、ガマンをする機会を、親自身の手でみんな取り上げてしまっています。そして、わずかなことにもガマンのできない、ブレーキのきかない我がまま放題な子どもをつくり上げておいて、しかも、その子に<手を焼いて>いるというのが大方の現状です』と記しています。

徳川家康の遺訓、相田みつを氏の教えについて、今一度かみしめてみたいものです。

全校朝礼の話より（10／7）

勝つことは大事

「勝つことは大事（育つものは・・・負けても）」

28日（土）新生桜小学校の運動会がありました。勝ったり、負けたり、接戦が続き、最後のリレーまで勝敗は分かりませんでした。そして、最後は8対8の同点で、赤白同時優勝となりました。平成23年度も同点でしたね。3年生以上の人は覚えていますか？

それでは、今日はスポーツで「勝つこと」についてお話をします。スポーツで「勝つこと」は大事ですか。大事だと思う人は、手を挙げて下さい。たくさんいますね。反対に大事ではないという人は？ 実際迷っている人もいるかもしれませんね。勝つことは大事なのだけれど、それだけでいいのか・・・やっぱりわからないと。

「勝つこと」はとても大事です。なぜなら、スポーツはみな勝つことを目標に努力し、競うものだからです。「もしこの中で、勝つことは大事ではない、適当でいいんだ」と思う人がいたら、それは間違いです。相手だって勝つために必死に練習しているのですから、みなさんも必死で勝とうとしなかったら、それは、相手に失礼なことです。だからこそ負けてしまったとき、堂々と勝った相手のすばらしさを認めることができるのではないのでしょうか。

昨年の夏のロンドンオリンピックでもそうでした。選手たちは勝つために必死に練習し、その成果を出して勝った人がメダルを獲得したのです。そして、必死に練習したけど、残念ながらメダルを獲得できなかった選手は、勝った相手の選手に大きな拍手を贈っていました。

では、負けてしまったら、意味の無いことになるのでしょうか。言うまでもなく、そんなことは全くありません。みなさんは、運動会で勝利をめざし、赤組、白組、それぞれが必死に競技しました。そして、勝つための忍耐力、仲間と力を合わせてつくりあげた絆、集中力、あきらめないねばり強さなど、それら多くの力が、勝ち負けの問題とは関わりなく、みなさんの中にしっかりと身に付きました。

今後みなさんが中学校、高校へ進んでも、大人になっても、すべての面でとても大切な力となるのです。「勝つこと」はとても大事です。同時に「勝つこと」を支えるのは、多くの努力や仲間との絆です、それは、最後に勝っても負けても、みなさんをすばらしく成長させてくれるのです。さあ、サッカー・バスケットの勝利にむかって精一杯努力してください。